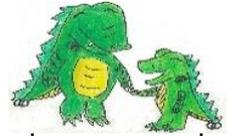


和邇小

# ニュースレター

NO.4



2019.3.14

和邇小学校区ではたくさんの方が地域で子ども達を見守ってくださいます。毎朝、実に多くの方が通学路で安全を見守ってくださっていたり、日中、学校へ足を運び子ども達と関わってくださったり、下校途中に声をかけてくださったりと地域で子どもを見守ってくださるのがひしひしと伝わってきます。

さて、2月のことになりますが、地域の方が「最近、あいさつをしても子ども達は返してくれへんねん。」と嘆いておられました。挨拶は社会に出て基本となることなので和邇小学校の子ども達にも、しっかりあいさつができるようになってほしいと話していただきました。



なぜ挨拶が大切なのでしょう。

リッツカールトンホテル日本支社の元社長である高野さんは著書の中で次のように書いています。

“「挨拶」の語源を紐解いてみると、禅宗で問答を交わして相手の悟りの深浅を試すことを「一挨一拶」という、その言葉に由来するそうです。「挨」には「押し開く」「互いに心を開いて近づく」、「拶」には「迫る」「擦り寄る」といった意味がある”

“「出会った人が互いに心を開いて相手に迫っていく」ということが挨拶とされています。”

簡単に言うと、挨拶は「あなたに心を開いています。」「あなたを大切な人だと思っています。」との表れであるとのこと。

また、挨拶についてこのように述べている人もいます。

実社会で仕事をすれば、成功するか否かは

『あいさつ』がどれほど上手く出来るかどうかに関わると言っても過言ではない。

人生が正に『あいさつ』に左右されるのである。

あいさつは顔の表情、声の高低、音調、抑揚、タイミングなどで微妙に相手に与える印象が違う。

それは人から教えられたり、本で読んだりして即座に身に付くものではない。

日常生活の中で習慣的に皮膚感覚で身に付ける部分が大い。

人に好感を持たれるあいさつはこども時代の

家庭教育や学校環境に大いに影響されるのではないだろうか。

(いりよに子育てしましよ) 助産師 佐木 より抜粋



地域の方からのお話をいただいた後、発達段階に応じて各学級で挨拶について指導をしました。地域に和邇小の子ども達のことを自分の子どもや孫のように大切に思い見守ってくださっている人がいること、挨拶をすることで「ありがとう」が伝わることについて考えました。

子ども達には、自分が誰かに支えられていることに気づき、感謝の気持ちをもって生きていけるように願っています。そのために、

学校では、挨拶が自然にできる児童が増えるように、声かけを続けていきます。

家庭では、挨拶の大切さについて話題にし、声かけをしてくださるとありがたいです。

地域では、これからも挨拶を続けてくださるとありがたいです。

3年生は道徳の時間に「いつもありがとう」を読み、自分たちの安全安心な生活には守っていてくれる人がいることに気づき、地域の人に伝えたい言葉を考えました。いくつか紹介します。



○毎朝、「おはようございます」を言いたいです。

○地域の人に、「いつも見守ってくれたり私達を安全にしてくれてありがとうございます。」と言いたい。

○ふれあい教室の人に、いつもありがとうと伝えたい。

○いつも学校の前で、校長先生と地域のおじさんお婆さんが「おはよう。」と言ってくれても、私は「おはよう。」と言えないので、これからはできるだけ「おはよう。」と言いたいです。

○近所の方が、いつもあいさつをしてくれて嬉しいです。ありがとうございます。

○地域でパトロールして私達を見守ってくれているので「ありがとう。」って言いたいです。「おはようございます」って言われてもたまにだまってしまうことがあったから、「ごめんなさい」と伝えたいです。

○毎日忙しいのに、私達のために声をかけてくれてうれしいです。あいさつがんばります。